

すため、魅力ある商品の発掘に  
取り組みます。また、ふくしま  
プライド販売力強化支援事業を  
活用し、町農産物の価値を伝え  
販売・消費の拡大を図るため、  
物産展等に参加してPRすると  
ともに、秋には収穫祭を開催し  
町農産物の積極的な消費を促し  
ます。

**担い手農家への農地の集約を**  
目指し、関係機関と連携して町  
内7地区のほ場整備事業に取り  
組むとともに、農地中間管理事  
業の推進に取り組み、「人・農  
地プラン」の実質化を図ります。  
また、農業振興と農業後継者を  
確保するため、広野町農業次世  
代人材育成奨学金により、その  
修学に必要な資金を貸付し、農  
業経営の安定と優れた農業担い  
手の確保を目指します。



鶴ヶ崎圃場整備

**新規企業の誘致と雇用の創出**  
につきましては、広野駅東側第  
1期開発地区における産業団地

との取り組みを充実・発展させ  
ていきます。  
**まち・ひと・しごと創生総合  
戦略の取組み**につきましては、  
「第5次広野町勢振興計画」  
及び「第2次国土利用計画」で  
示す基本理念や将来像と方向性  
が一致している「まち・ひと・  
しごと創生総合戦略」において、  
特に若い世代における移住・定  
住の促進、交流人口や関係人  
口に代表される新たな人の流れ  
を町づくりを展開し、産業分野  
の戦略的ビジョンとして位置付  
け、広野町らしさを前面に押し  
出した「広野スタイル創出事業」  
に取り組んでいます。本年は、  
その「まち・ひと・しごと創生  
総合戦略」の改定時期にあたり  
ます。人口減少や超高齢化社会  
を念頭に、各地域が特色を活か  
し、より効果的・効率的で持続  
可能な社会の実現に向けた計画  
策定を目指します。



パラスポーツで「ホストタウン交流」

や広野工業団地への新規企業の  
誘致を進めるとともに、除染廃  
棄物等の仮置き場として土地利  
用を図っていた東町地区仮置場  
を産業団地として新たに整備を  
行い、積極的な企業誘致を推進  
し、雇用の創出を図っていきま  
す。

現在、広野工業団地に17社が  
進出しており、1社が事業所を  
建設中、1社が進出を決定、さ  
らに1社が進出を予定しており  
ます。今後、操業開始により地  
元からの採用が大いに期待され  
ます。

旧広野幼稚園園舎につさまし  
ては、広野幼稚園舎有効活用検  
討委員会からの提言内容を参考  
にしながら、(仮称)文化交流  
複合施設整備事業として、新た  
なコミュニティの場、町民の憩  
いの場となるよう整備を図って  
いきます。

### ③「未来をつくる町」に ついての事業

子ども子育て支援新制度につ  
きましては、令和元年度に策定  
した第2期広野町子ども子育て  
支援事業計画に基づき、町が主  
体的に教育・保育や子育て支援  
に関する事業量の確保と質の向  
上を図るとともに、すべての町  
民が子ども・子育てへの関心と  
理解を深め、家庭、学校、地域、

**復興五輪「東京オリンピッ  
ク・パラリンピック2020」**  
への取り組みにつきましては、  
3月26日のオリンピック聖火リ  
レー・グランドスタートを皮切  
りに、復興五輪と位置づけされ  
た「東京オリンピック・パラリ  
ンピック2020」への取り組  
みが始まります。これまでの縁  
から、昨年にアルゼンチン共和  
国の「ありがとうホストタウン」  
に登録し、現在、アルゼンチン  
ナショナルチームの事前キャン  
プやホストタウン交流を模索し  
ております。

また、オリンピック・パラリ  
ンピックの期間中に都内で開催  
される「ホストタウン・ハウス」  
にPRブースを出展し、町の魅  
力を発信するとともに、東日本  
大震災・原発事故によりご支援  
を頂いた、全国・国際社会の皆  
様に感謝の念をお届けするべく  
積極的に取り組んでいきます。

**町内インフラ施設の維持管理  
及び整備**につきましては、道路  
橋梁、トンネル、下水道施設の  
点検を実施し、道路や下水道施  
設の計画的な補修を実施し施設  
の長寿命化を図り、安全確保に  
取り組めます。

**道路整備**につきましては、危  
険箇所、未改良区間の解消を計  
画的に実施し、町民の生活環境  
の向上を図るとともに、安心安

職域などのあらゆる場において  
子どもと子育て家庭を支えあ  
うまちづくりを推進します。

**広野こども園**における幼児教  
育につきましては、次代を担う  
子どもたちが生涯にわたる人間  
形成の基礎を培う重要な役割を  
担っていることから、これまでの  
A・L・Tによる英語教育に加え、  
遊びの中で主体的に対象にか  
かわり学ぶことができる「こ  
とばの教育」の導入を図ってい  
きます。

**児童福祉事業**につきましては  
は、児童館において80名を超え  
る児童の入館が予定されてお  
り、将来を担う子ども達が、明  
るく、元気に、健やかに過ごせ  
るよう指導体制も含め環境整備  
に努めて参ります。

東日本大震災及び原子力事故  
から10年目となり、復興創生期  
間の総まとめとなる本年、**広野  
町復興計画**に掲げる基本理念・  
目的を達成するため、シンボル  
事業として位置付けている広野  
駅東側第2期開発地区における  
宅地造成を確実に進めていきま  
す。同事業の実施にあたっては、  
若者世代の移住・定住に重点を  
置き、土地購入に係る新たな補  
助制度の確立を図ります。開発  
地区におけるインフラ整備の費  
用については、福島再生加速化  
交付金を始めとした国・県補助

全な道路網を形成し、有事の際  
の緊急車両の通行及び通勤通学  
時の安全確保を図っていきま  
す。

令和元年の台風19号及び21号  
に伴う豪雨により道路の路肩崩  
落や河川の護岸崩落等の災害が  
発生しておりますが、災害復旧  
に向け引き続き取り組んでいき  
ます。**町内の排水対策**につ  
いては、下北迫浜田地区から前川  
地区及び折木田中地区から関の  
上地区の排水路整備に取り組ん  
でいきます。

**ふくしま森林再生事業**につ  
きましては、上浅見川地域より、  
間伐などの森林整備と表土の流  
出を防止するなどの放射性物質  
対策を一体的に実施し、森林の  
有する多面的機能の維持と放射  
性物質の拡散防止を図ることを  
目的として計画的に取り組ま  
す。令和2年度においては、柴  
橋、東黒森、南山など、およそ  
62ヘクタールの整備を目指しま  
す。

**環境対策**につきましては、各  
地区のごみステーションにおい  
て、指定ごみを収集日以外に出  
されている事案や不要となった  
家電等を空き地や林道敷に不法  
投棄している事案もあります。  
これらについては、家庭ごみ収  
集日カレンダーの配布、広報等  
によるマナーの周知を行うと

金等の活用に努め、町一般財源  
の負担を少なくする財政運営に  
取り組みます。

**広野駅周辺整備**について、「広  
野駅周辺整備の基本事項に関す  
る協定」に基づきJR東日本と  
協議を進めております。3月14  
日には、常磐線富岡駅・浪江駅  
間で全線が開通し仙台駅まで繋  
がることとなり、特急列車の運  
行も再開することから、これま  
で以上に交流拠点としての駅利  
用が求められます。駅構内と線  
橋と未来のかけ橋へのエレベ  
ーター設置を加速的に進め、バ  
リアフリー化を図るとともに誰  
もが安心・安全に利用できる環  
境を構築します。



バリアフリー化されたJR広野駅

**イノベーション・コースト構  
想の推進**につきましては、双葉  
地域における廃炉や被災地域の  
復興を円滑に進めるためには、  
ロボット技術をはじめとしたエ  
ネルギーや農業など多岐にわた

もに、環境美化推進員の見回り  
と**広野町安心・安全ネットワー  
ク会議**を通じ、関連事業所等へ  
の注意喚起に取り組めます。  
**除染対策**につきましては、昨  
年度に引き続き、住民の放射線  
からの不安払拭並びに生活圏に  
おける放射線の状況について情  
報提供するため、一般家屋及び  
公共施設の敷地における環境放  
射線モニタリング調査を実施し  
ます。

また、東町仮置場にある除去  
土壌等除染廃棄物は、環境省に  
おいて全て中間貯蔵施設への輸  
送が完了していることから、早  
期に敷地内の原形復旧を行いま  
す。  
**教育全般**につきましては、こ  
れまで実践してきた教育活動を  
展開しつつ、「広野町幼小中魅  
力化提言書」を踏まえ、「広野  
町教育ビジョン」の見直しを図  
り、ふたば未来学園中学校・高  
校との連携を見据えながら、広  
野町立学校独自の魅力の創出を  
図っていきます。

**ICT教育推進事業**につさま  
しては、新学習指導要領におい  
て、「学習の基盤となる資質・  
能力」と位置付けられた情報活  
用能力についてプログラミング  
教育を通して育成するとともに  
に、「主体的・対話的で深い学  
び」の実現に向け、ICT支援

る分野における研究開発が実施  
され、その技術や人材が当地域  
の産業復興の原動力となると期  
待されています。本町は、その  
拠点となる研究施設のバックオ  
フィスの役割を果たし、当地域  
の復興に弾みを付けるよう取り  
組んでおります。イノベーション  
・コースト構想の重点分野に  
ついては、地元企業や高等学術  
機関に加えて国際機関など、**国  
際産学官の連携を強化**して行く  
必要があります。浜通りの現  
状・課題を整理し、技術の実用  
化及び具体化に向け本格的な事  
業化を推進するために、専門家  
をはじめ知見を有する人材を配  
置し、経営戦略の構築、地元企  
業とのマッチングやベンチャー  
企業の創出を積極的に進めてい  
く時期にきております。このこ  
とは、当町に立地する県立ふ  
たば未来学園高校における約  
500名の高校生が、自立、協  
働、創造の校訓のもと勉学に励  
んでおり、浜通りに進出した研  
究機関や企業の求める人材育成  
にとつての実学の場として最も  
重要な位置を占めると確信して  
います。今後は、より高度な就  
学の間である大学などの高等教  
育機関誘致を含め検討すると  
ともに、連携協定を締結してい  
る東日本国際大学や福島高専、早  
稲田大学環境総合研究センター

員を配置し、本町の教育実態に  
即したICTの活用に取り組み  
ます。



広野中学生海外交流派遣事業

**グローバル教育推進事業**につ  
きましては、新学習指導要領に  
掲げられた外国語教育の充実を  
図るため、外国語指導助手を活  
用した英語教育に加え、広野中  
学生海外交流派遣事業・小中学  
校児童生徒合同でのプリティッ  
シユヒルズ異文化交流宿泊体験  
事業を継続して実施いたしま  
す。

**ふるさと創造・映像教育プロ  
ジェクト事業**につきましては、  
映像制作を通してふるさと広野  
町の良さを再発見し、伝統と文  
化を見つめ直すことで、広野町  
の未来と地域の復興に貢献でき  
る子どもたちを育成する「ふる  
さと創造学」を中学1年生から  
3年生までの3力年に亘る教育  
として取り組みます。